

2023年09月22日

意見陳述書

控訴人 伊原 潔

最初に安保法制成立以降の政治情勢について私の所感を述べたいと思います。安保法制の成立以降、憲法を強引に変えようとする動きが止まりません。亡くなった安倍元首相は改憲発言を繰り返していましたが、本来、国会議員は憲法遵守義務があるはずで、政権党による改憲発言が繰り返され、人権を踏みにじる発言にはめまいを覚えます。国民が望んでもいない憲法審査会が開かれ改憲論議が平然と行われています。その内容は主権者を冒瀆するもので、主権を国家に取り戻そうとする醜聞な議論です。

人権がないがしろにされる政治風土は悲惨な事件を誘発していると感じています。恨みもなく誰でもよかつたとする殺人事件、尋常とは思えない殺害方法、ネット社会では誹謗中傷が飛び交っています。子ども達はいじめに苦しんでいます。こうした現象は抑圧された教育や政治の荒廃がもたらした結果ではないでしょうか。異常な社会です。

国民の中には言いようのない閉塞感や貧困、人間不信でジッと耐えて生活している人もいます。一方、政治の世界では収賄事件や歴史の改ざんが繰り返され、反社会的な宗教団体とのつながり、秘密主義、人権抑圧が幅を利かせています。他国との信頼関係を壊すような政治姿勢も伺えます。軍拡を進めるために社会主義国家脅威論が利用されています。その反面、米国との関係は日米同盟の強化を合言葉に経済の従属化と米国言いなりに兵器の爆買いが続いています。

ついに岸田政権は「台湾有事にかこつけた中国との戦争準備。そのための43兆円もの軍拡予算。安保3文書の閣議決定、社会保障・教育予算の削減」さらには「敵基地攻撃能力、先制攻撃反撃能力」などと物騒な戦略に舵を切りました。専守防衛は何処へ行ったのでしょうか？安保法

制はこうした憲法とは相いれない戦争国家へ導いています。

ロシアのウクライナ侵略では核兵器使用が取りざたされています。日本は米国と一体に核抑止の立場に立ち、広島サミットで宣言までしました。首相は被爆者の悲しみを想像したことがあるのでしょうか？対立する国々との外交をやめ、米国を中心とする世界戦略に組み込まれています。アセアンのように平和共存の道を歩もうとする気配さえ感じません。日本国憲法の平和主義は単なるお飾りではありません。78年前の侵略戦争を反省していない政権は結局、同じ道を歩もうとするのか？と恐ろしくなります。日米同盟の強化は日本の安全を完全に脅かしています。

次に私たちが安保法制によってどんな被害を受けているのかについて述べます。

1審の判決で否定された国民の被害は、軍事費を増やすために国民の暮らしと安全がおろそかにされていることです。物価高騰、地球温暖化による熱波や災害から私たちは逃れることはできません。その対策が後回しになっています。子どもの貧困や非正規労働者の生存権が保障されているのでしょうか？若者は教育ローンと低賃金に苦しんでいます。年金が軍事費調達の財源にされた歴史を考えると、同じことが繰り返されない保障は何処にもありません。安保法制による軍事優先の政治を止めなければ、暮らしは守れません。温室効果ガスによる異常気象は深刻な被害を拡大しています。一刻も早い対策が求められていますが、戦争準備に執着する政府にその気はないようです。

1審では放射線技師としての職業経歴から戦地に送られる恐怖を訴えました。その後、状況はもっと深刻になり、ミサイル攻撃に備えて原発の放射能拡散を警戒する立場に自ずと立たされるように思えてなりません。既に福島第1原発事故で環境測定を経験した人はたくさんいます。しかし、そんな心配をしながら暮らすのはもう止めたいです。私はこの裁判の過程で孫ができ、間もなく2歳になります。女の子でとてもかわいいです。その子が戦争に巻き込まれるのを想像させる日本って何なのか？やり場のない怒りと悲しみに包まれます。此処はウクライナではありません。憲法はそんなに無力ですか？

戦争をしない、地球環境を守る、命を守る。人権を守る。暮らしを守る。そのための憲法であ

るはずです。安保法制など必要ありません。

私の心は深い闇の中でさまよっています。しかし、いつも憲法が励ましてくれます。憲法12条を知っているからです。私は憲法を壊す安保法制が許せません。どうぞ、社会に希望が見える判決を出していただくようお願い、私の意見陳述とします。

以上